

「ぎりぎり」

登場人物

鈴木（後輩）

瓜生<sup>うりう</sup>（先輩）

ざわざわとしたオフィスのSEが流れる  
照明FI

午後4時50分のオフィス内。

忙しく働く人々。

鈴木はパソコンへの入力作業。

瓜生はなんらかの書類を作成している。

あわただしい。

とにかくあわただしい。

そんな中書類をぶちまける瓜生。何かが途切れる。

鈴木、席を立ち、プリンタに印刷した用紙を取りに行く。

と、電話が鳴る。

瓜生

(少し受け口で)ありがとうございます。インペーシメントでございます。申し訳ございません。凶子は外出しております。折り返しご連絡いたします。

はい。ご連絡先を・・・はい。はい。失礼いたします。

電話、すみません。

ねえ。

はい。

いま、少し受け口だったのわかった？

は？

今ね、ちよつとアゴ出してみた。(しゃくれながら)

わかりませんでした。

私がこんな顔で電話とってるのに、相手まじめ。くっくくくく。

そりゃそうでしょ。

電話が鳴る。

鈴木

ありがとうございます。インペーシメントでございます。お世話になっております。

瓜生、書類作成にとりかかる。

鈴木

内村でございますね。少々お待ちくださいませ。

鈴木、社内を見渡す。

鈴木

内村主任はー。

瓜生

2階。ありがとうございます。

(転送ボタンを押す)

お疲れ様です。鈴木です。内村主任ですか？  
ユージーオーの臼井さまよりお電話です。転送します。

鈴木、作業に戻る。

瓜生 (内村の声真似) はいもしもし、内村ですけど何か？

鈴木 (内村の声真似) おばさん、会議室にコーヒーお願い。

瓜生 (瓜生の方を見ずに) 似てますね。

鈴木 私内村のモノマネ自信あるんだよね。電話だったらバレないんじゃないかな。

電話が鳴る。

瓜生、喉の調子を整える。

鈴木が電話に出ようとしたとたん、瓜生が受話器を取る。

瓜生 (内村の声まねしながら) ありがとうございます。インペーシエントでございます。

鈴木、驚く。

瓜生 お世話になっております。．．．え！

鈴木 ．．．失礼しました。お変わりします。(転送ボタン押す。声戻す)

瓜生 ズアト製作所の梅田さまから！

鈴木 どうしたんですか？

瓜生 (笑いながら) 内村にだった。

鈴木 え。

瓜生 人変わってないことになってる！

鈴木、大爆笑。

瓜生 鈴木、あきれた感じだが、少し笑いそうになる。

鈴木 内村さー、あんな声なのにカラオケ行くと変わるらしいよ。

瓜生 そうなんですか。

鈴木 ヒーローを力いっぱい歌うって。

瓜生 へー、意外。

鈴木 想像できる？ 内村のヒーロー。

瓜生 うーん。

鈴木 あの声でよ。迷惑ー。聴く人のことも考えてほしいわー。で、ヒーローって。ふるー。

瓜生 先輩だって世代じゃないですか。

鈴木 あ、そういえば上島くんが瓜生先輩のこと、お母さんより年上と思ってたそうですよ。

瓜生、シヨックを受け机に突っ伏す。  
鈴木、仕事に戻る。

鈴木

(しばらく仕事をして)

…わたし、これから内村主任と飲み会なんですよね。もしかしたらヒーロー聞けるかも…

瓜生、いつのまにか眠っている。

鈴木

先輩。せんぱい。  
はっ。眠気を覚ます工夫をする運動！。

眠気をさまそうと立ち上がり、背伸びをする。

瓜生

んんん。…いま私が立ち上がったの誰も見なかった。

鈴木

そうですか。

瓜生

すごいね。みんな  
集中してるんですよ。月末だし。  
そっか。

瓜生、オフィス内を見渡す。

立ち上がり、ゆっくり左右にゆれる。  
鈴木、ちらっと見ながらも作業。

瓜生

ぶっは！ (声を抑えながら) 誰も見てない！

鈴木

注意されますよ。

瓜生

大丈夫、だつれも見えないもん。  
集中してるんですよ、月末だし。

鈴木

すごいね、月末。  
すごいですよ、月末。

瓜生

すごいね、大人。  
すごいですよ、大人。

瓜生、立ち上がりちよつとしたステップを踏む。

瓜生

(座って) すごいね、月末。

鈴木

すごいですよ、月末。  
瓜生、周りを見渡し、また立ち上がる。  
右手をすつと上げる。

瓜生

すごいな、月末。

鈴木

…。

瓜生

あ、すみません。いや、肩が痛くて。(すばやく仕事をするふり)…ぶぶぶぶ。

鈴木 先輩。  
瓜生 なに？  
鈴木 一体化してませんもん。  
瓜生 は？  
鈴木 ここ空気と。  
瓜生 一体化？

鈴木、プリンタに向かって歩き出す。  
プリンタをしばらく見つめる。  
戻ってきたながら、2ステップジャンプ。

瓜生 ぶおっほー！ 何にもない！ 何にも目的のないのに歩いた。  
鈴木 目的がありそうな雰囲気を出してるんです。  
瓜生 なるほど。

瓜生、歩きだす。  
課長の方に身体を向け、前かがみになり、手をそつとあげる。  
課長に気付かれる。

瓜生 あ、すみません。いや、冷房はいつてるかなーと思って。

瓜生、冷房を確認した風で戻ってくる。

瓜生 気付かれたじゃない。(焦りながら)  
鈴木 課長の前で、目的がありそうな雰囲気出してどうするんですか。  
瓜生 ぶつつふあ！

鈴木 あとは、品です。

瓜生 品！  
鈴木 品！

瓜生、プリンタに向かって歩きだす。  
プリンタをしばらく見つめる。  
戻ってくるときに、華麗にターン。  
上島に気付かれる。

瓜生 何よ。上島、仕事しなさいよ！

戻ってくると瓜生大爆笑。

瓜生 気づかれたー。  
鈴木 ターンは絶対駄目！  
瓜生 (笑いながら) 空気と一体化してなかった？

鈴木 (笑いこらえて) 空気かき乱しましたよ。  
瓜生 あははははー。お腹痛い!

鈴木、すつと立ち上がる。  
顔をゆっくり左に向ける。  
急に顔を前に戻し、目を見開く。

瓜生 だっはー!!

鈴木、座る。ゆっくり右手を頭の後ろに、次に左手も。  
両肘を前にだしパタパタする。

瓜生 がつは!  
鈴木 うふふつ。

ここから、瓜生と鈴木が交互にぎりぎりなアクションを繰り返す  
ひと段落して

瓜生 どう?  
鈴木 ぎりぎりですね  
瓜生 課長が一瞬こっち向くかと思った。

鈴木、仕事に戻ると、みせかけてキーボードを入力する手を徐々に横に横にずらす。瓜生をチラ見する。  
と、瓜生、白目になっている。

鈴木 は! 白目!  
待って待って。

鈴木、真似して白目で入力。

鈴木 よかったー。ブラインドタッチ出来て。  
瓜生 いや、ブラインドタッチって、画面は見るんだよね。  
鈴木 そつか。(目をあける。時計を見る)

瓜生 これこそ、本当のブラインドタッチ! (思わず大きな声になる)  
鈴木 じゃ、私飲み会あるんで。  
瓜生 お先に失礼します(鈴木出て行く)

瓜生 え?

瓜生目をあげる。  
課長が目の前に立っている。

瓜生 ! . . . . ドライアイ!

照明CO

暗転

と、そこに聞こえてくる音楽  
それは「ヒーロー」BYアサクラミキの前奏である。

照明CI

浮かび上がるサングラスの女性  
内村である。手には、マイク。

前奏が終わると高らかに「ヒーロー」を歌い始める。  
横で聞いているのは鈴木。あっけにとられたような、

楽しんでいるような、困っているような様子である。

ますます熱のこもった様子で歌い上げる内村。  
夜は、更けていく・・・

照明FO  
ヒーローの伴奏はしばらく流れ続けやがてFO。

「ぎりぎり」おわり